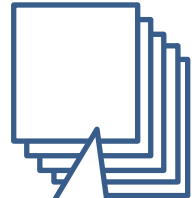


4. 今後10年を見据えた技術ポテンシャルの検討(1)

技術ポテンシャルマップ作成までの流れ

①技術ポテンシャル個票 (各メンバー)



個票の集約

②集約版マップ (中間とりまとめ)

技術の全体俯瞰

2022年の姿

- ・社会・I-ザ視点
- ・技術スペック

- 技術的視点
 - ・技術重点化の考え方 (本WGにて議論)
 - ・最近の技術評価資料

- ・整理軸の検討
- ・粒度合わせ、グループ化
- ・不足項目の追加
- ・フィルタリング (事務局調整ミーティング)

【WG会合開催状況】

- 5月18日 第1回WG会合
- 5月30日 第2回WG会合
- 6月21日 第3回WG会合

【事務局調整ミーティング開催状況】

- 6月5日 第1回会合
- 6月12日 第2回会合
- 6月15日 第3回会合
- 6月27日/第4回会合

参照

- 経済的・社会的視点
 - ・課題重点化の考え方 (関係戦略協議会、重点化課題検討タスクフォース等)
- ⇒ 【参考5】参照

共通基盤技術検討ワーキンググループ
(ナノテクノロジー・材料)

③技術ポテンシャルマップ (2012年6月版)

2022年のすがた
(ユーザー・社会視点)

デバイス・材料関連技術
※2022年の技術スペック

基盤的技術技術
※2022年の技術スペック

4. 今後10年を見据えた技術ポテンシャルの検討(2)

10年後の技術ポテンシャル・ブレークスルーについての検討の視点

視点	説明
基盤性	● 当該技術が、特定の用途のみでなく、複数の技術分野・領域への適用が可能な技術であること
革新性	● 以下のいずれかに該当する技術であること
	① 現在、実用化されていない技術
	② 作動原理、製造原理が新しい技術
	③ 既存技術の延長にあるが、改善代が明確な技術
実現性	● 目的とそれを達成するための技術的なボトルネックが明確であること
	● 上記を解決する方策と目標時期が明確であり、ロードマップを作成できること
	● 10年以内を目途に技術の基本骨格が確立する見通しが立っていること
技術競争力の優位性	● 国際ベンチマーク上、日本が強い、もしくは今後強みとすることが期待できる技術領域であること

<候補技術の選定>

- ナノテク・材料WGでは検討の第1ステップとして、今後10年間で大きなブレークスルーが得られる可能性のある技術について、その候補を挙げ、全体俯瞰を試みた。
- その際、左記のような視点からの技術の抽出を行い、検討の基礎とした。
- 加えて社会的課題の解決方策を検討する協議会、タスクフォースにおける重点化検討の視点についても参照しながら候補を選定した。

<重点化の視点に関する付帯意見>

- 技術のポテンシャルに関して、ナノテク・材料WGでの議論において、左記の視点に加え、ライフイノベーション、グリーンイノベーション及び復興・再生の各協議会及び重点化課題検討タスクフォースにおける重点化課題・取組抽出のための視点を考慮することが必要とされた。